医化学創薬株式会社

国立研究開発法人科学技術振興機構に対する 第三者割当増資に関するお知らせ

医化学創薬株式会社(代表取締役社長:伊藤勝彦、札幌市)は、この度、国立研究開発法人科学技術振興機構(理事長:濵口道成、埼玉県川口市、以下「JST」という。)に対する第三者割当増資を実施することを決定いたしましたのでお知らせ致します。

今回の第三者割当増資は、科学技術振興機構の出資型新事業創出支援プログラム(略称: SUCCESS (SUpport Program of Capital Contribution to Early-Stage CompanieS))に基づくものです。

このプログラムは、JST の研究開発成果の実用化を目指すベンチャー企業に対し JST が 出資並びに人的及び技術的援助を行うことでその創出及び成長を促進し、当該ベンチャー 企業が行う事業活動を通じて JST の研究開発成果の実用化・社会還元を促進することを目 的とした事業です。

当社は、従来から JST の支援を受け、平成 16 年度「疾患早期診断のための糖鎖自動分析 装置開発」、平成 21 年度「全自動糖鎖プロファイル診断システムの開発」等の研究開発を進めてまいりました。

当社は、保有する基盤技術である

- ①糖鎖解析技術:グライコブロッティング法※1
- ②糖鎖合成手法:マイクロ波と酵素合成法を活用
- ③抗体の評価法:糖ペプチドライブラリー/マイクロアレイの作製技術
- ④特異抗体作製:非特異吸着抑制 (PC/SAMs) 微粒子作製技術

に基づいた総合的な糖鎖解析手法である「GT-PlatformTM」を提供しております。

今回の増資によって、この GT-PlatformTM を用いて解析したデータを基にリード抗体を作製するシステムで抗体医薬の創製プラットホームである「QuaDRADTM」の創薬現場への提供を加速してまいります。

また、同時に戦略的資本業務提携先である株式会社トランスジェニックに対して、新たな 第三者割当を実施いたします。当社は、同社との関係強化を通じて、共同研究及び協働事業 のより一層の促進を図ってまいります。

※1 グライコブロッティング法:

化学選択的な糖鎖捕捉反応に基づいて、生体試料由来糖鎖の網羅的かつ定量的なプロファイル取得を大幅に高速化する技術。生体分子中で糖鎖にのみ存在するアルデヒド基を、ヒドラジド基を有するビーズで選択的に捕捉し、ビーズ上でメチル化、ラベル交換反応を行うことで、迅速な糖鎖解析を可能とする。この方法によって、ペプチド、脂質、タンパク、DNA など大量の夾雑物が存在する生体試料から、糖鎖のみを抽出、定量解析することが可能。



【国立研究開発法人科学技術振興機構】

わが国における科学技術情報に関する中枢的機関として内外の科学技術情報を迅速かつ 適確に提供する事を目的に 1957 年 8 月に設立された日本科学技術情報センター

(JICST) と、海外技術への依存から脱却し、わが国の大学や国立研究所等の優れた研究成果を発掘し、その企業化を図ることを目的に 1961 年 7 月に設立された新技術開発事業団 (JRDC) が 1996 年 10 月に統合し、科学技術振興事業団 (JST) が設立されました。 2003 年 10 月には、独立行政法人科学技術振興機構 (JST) となり、2015 年 4 月には、現在の国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) となりました。

イノベーションのナビゲーターとして、 わが国の科学技術の発展を牽引し、広く世界を先導する組織です。

【医科学創薬株式会社について】

2010年、先端的な糖鎖研究をサポートするとともに、新たな医療を待ち望む人々に役に立つ抗体医薬品を創製することを目的として設立されました。

糖鎖解析・合成を中心とした総合的糖鎖技術 GT-Platform™を確立し、これをベースに抗体医薬品創薬システム QuaDRAD™を完成させました。これらの技術・システムを基盤にして受託サービス及び創薬事業を展開し、糖鎖及び創薬の研究をサポートするとともに、さまざまな疾患領域の抗体医薬品を継続的に提供し、医療と健康に貢献したいと考えています。

お問い合わせ先

医化学創薬株式会社 経営管理部

〒001-0021 札幌市北区北 21 条西 12 丁目 コラボほっかいどう